

希望のキリスト(ルカ 1:67-80)

人々は人生の希望についてさまざまなことをもって励まそうとしています。どんなことがあってもあきらめることさえなければ必ず道は開かれるとか、努力は必ず報われるので頑張りなさいとか、倒れてもまた起き上がれば大丈夫なんだよ、3度倒れれば4回立ち上がればそれで結構なんだよという言葉で人々を励まして、落胆せずに突き進むようにそのような言葉をかけています。それは悪いことではありませんが、クリスチャンの私たちはこのように問いかけなければいけません。そのような励ましの言葉に本当の希望はあるのか。それがわた私たちにとって、また落胆している人々にとって本当の希望になれるものなのかということ問いかけなければなりません。また逆に、人につまずいて環境に負けてしまい、状況に溺れている人々が、こういうことさえなければという言い訳をする場合があります。それでこの状況が、この条件が、この環境が変わればよくなるだろうとつい思います。もちろん変わる場合もあるし、変わってよくなる場合もありますが、本当に彼らが思っているように「そうでなければ」それが希望につながるものだったのでしょうか。あるいは今の嘆くような状況が「変われば」そこに希望が生まれるものなのでしょうか。そういうことをクリスチャンの私たちは素直に真剣に問いかけなければなりません。それでクリスチャンの私たちは、ここで本当の希望はどこにあるのだろうか。何が本当の希望なのかということを実際に問いかけて聖書を通してその答えを教えられなければなりません。

今日の聖書を見ますと、ザカリヤがバプテスマのヨハネが生まれた喜びとともに預言する内容です。その預言の内容は、希望にあふれるそのような内容でした。もちろん自分の息子が生まれたという喜びもあるでしょうが、その喜びの希望の預言の内容は、息子が生まれたからの喜びではありません。今までなかなか子どもが授からなかった。けれども神様の恵みによって子どもをいただくことになった。だからそこに希望がある。そういう次元の話ではありません。この預言というのは、先のことを語るという意味ではなくて、神から与えられたものを伝言するという意味の預言なのです。預かりの言葉と漢字で申し上げるとそうなっています。このザカリヤが希望にあふれる預言の言葉を語っていますが、今これがどのような時代、どのような状況だったのかを少し考えなければなりません。旧約のイスラエルの歴史が終わり、400年間、神の啓示、契約のみことばが途絶えていた、そういう時代です。そして、イスラエルはローマの植民地になっている状態でした。だからその時期を暗黒の時代と歴史的にも呼んでいる時代を生きていたものなのです。そこからやっと希望の光を見て、バプテスマのヨハネが生まれたことでキリストが来られることに釘を刺すような、しるしのようなサインなので、そこでザカリヤは希望にあふれる預言の言葉を語っているということです。つまり、ザカリヤは暗黒の時代を生きていながら、キリストから希望を見ていたのです。そこに真の希望があります。ザカリヤの預言の言葉を通して、どこに希望があるのか、何が私たちの本当の希望なのかということを確認していきましょう。

1. キリストは絶望の人生に終止符が打てる希望

まず第一に、キリストは希望であります。キリストは絶望の人生に終止符が打てる、そのような希望なのです。キリストは絶望に終止符が打てる希望なのです。ザカリヤの預言の言葉の中にこのような表現がしばしば出ています。我らを敵から救われた。キリストによってこれからそういうことになるよと。憎む者の手から救われた。罪の赦しによる救い。それがキリストを通してなされることなのです。だから、そのキリストを通して絶望の人生に終止符が打てるという希望をもって預言の言葉で語っているわけです。

1) 敵から、憎む者の手から、罪の赦しによる救い

敵から、憎む者の手から、罪の赦しによる、このような内容は何を意味するのでしょうか。ザカリヤのこの預言の言葉は、私たち人間は、実は自分では抜け出すことはできない問題に捕らわれている存在だということを表しています。

2) 根本問題、サタンの罠と枠、足かせ

根本的な問題を抱えているのです。神と一緒にいるべき人間が神様を離れてしまいました。なので、人間は

だれひとりとして例外なく、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると呼ばれる身分となり、結果、罪と呪いの運命に縛られて人生を生きることになりました。これが敵に捕らわれているという意味なのです。その結果、悪魔サタンは自分の奴隷にしてしまったので、絶対に神様に行けないように、神様に会うことができないように罫を掘ってそこにはめてしまいます。神様がいらっしゃらないので、人間自身が神になるように、自己中心になるようにします。そうすると絶対に神様には会えません。それから、この世の中を生きていく中で目に見えるものの奴隷になって、お金、裕福さ、それが神なのです。お金が神になるように。お金が神である限り、本当の神様に会うことができません。それから、この世における成功、それが神になるように。世の成功を追い求めて、それを神にしている限りは本物の神様に会うことはできません。このような罫を掘って、そこに人間をはめ込むことで人間が神様に会えないようにしています。それから、それにまた釘を刺して、絶対に神様に会えないように、人間が不幸のまま滅びてしまうように枠を作りました。その枠が何かというと、宗教という枠なのです。宗教に入ってしまうと、神様に会うことは正反対の方向に行ってしまう。偶像崇拜という枠を作りました。偶像を拝む限り、真の神様に会うことはできません。また占いやおふだ、お守り、迷信、さまざまなイデオロギーというものを作って、そこにのめり込むようにしてしまいます。そこに入ってしまうと、神様に会うことができません。このように神様に会えない運命に捕らえて、そこに蓋をすることで人間が絶対に神様に会うことができないように悪魔は人々を操っているわけです。その結果、そこに捕らわれているので、人々はいくらもがいても運命に逆らうことができません。それで一生答えが得られないまま、ずっとさまよい続けるようになり、何かしらに縛られ奴隷になって執着して人生を生きることになり、あるいは消えない不安を抱えて人生を生きることになります。神の御怒りが留まっているままの状態なので、こういった人の根本的な問題、悪魔のしわざというものが合わさって、それが症状として現れます。まずは心と精神が壊れていくことになり、体も壊れて病を患うことになり、人間関係も壊れて、家庭も壊れていくようになるし、人生そのものが崩壊していくことになります。そのうち一度は死んで、死んだ後はさばかれて、永遠の地獄に落ちる運命を抱えて生きるしかないし、これが自分で終わるのではなくて、次世代に終わることなくずっと霊的遺産として受け継がれることになります。終わりがありません。この悪魔のしわざに引っかかって、そこから抜け出すことができないまま、人は絶対に神様に会うことができないまま不幸な人生を歩くしかありません。

3) 解決不可能の絶望

この問題の解決の道は一つしかありません。すべての人間の不幸の元凶である悪魔のしわざを打ち壊すこと以外には方法がありません。それで悪魔に捕らわれるしかなかった人間の罪と呪いを完璧に解決すること、きよめることでまた本来の人間に戻って、神様と一緒にあって神様に会うことのほかに希望がありません。しかし、世の中にはそれに当てはまるようなことは何一つありません。だから、神様はそのことのためにキリストを約束されました。

4) 唯一の道、キリスト(真の王、祭司、預言者)

キリストは悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさる真の王様。キリストは人の罪と呪いを代わりに背負って贖う真の祭司。キリストは神様と会える道となる真の預言者なのです。そのキリストのほかに道がありません。このキリストを通してここから抜け出すことができます。なぜもがいても努力してもダメなのでしょう。人の努力は悪くはありません。知識も必要なものなのです。また、自分の良心に従って真面目に生きることも必要なことです。しかし、それが悪魔サタンには1mmも通用しないし、滅びの呪いの運命には何一つ役に立つことなどはありません。だから、もがいても頑張っても何がどう変わっても人の人生は変わることはありません。不幸から抜け出すことができません。道は唯一キリストのほかにありません。神様はこのキリストを私たちに送ってくださいました。

5) キリストの希望を見たザカリヤの預言(68, 69, 71, 74, 77)

ザカリヤはこのキリストが来られることを確信して、そこから希望を見たわけです。人間がいくらもがいても絶対に抜け出すことができない絶望の運命にやっと終止符を打つことができるんだと。時代が変わり、政治が変わり、制度が変わり、学問が変わり、さまざまなことが変わっても絶対に抜け出すことができない絶望の運命なのです。キリストが来られることで。このキリストによって絶望の人生に終止符を打つことができるという希望を見ました。敵の手から、憎む者の手から、罪の赦しによる救いということキリストを通

して見る事ができたのです。それでキリストにある希望を見たザカリヤが68節でのこのように言っています。「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし」、69節には「救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた」。71節には「この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである」。74節にも「主は私たちを敵の手から救い出し」、77節には「罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである」。キリストにはこのような希望があるわけです。どのような絶望の人生があっても、それに終止符を打つことができる唯一の希望なのです。だから、それを喜んで預言しているわけです。これがザカリヤの預言を通して確認できる真の希望です。皆さんにもぜひキリストを通してこの希望えを見て、これが皆さんのものになるように主の御名によって祈りたいと思います。

2. キリストは新しく生まれる希望

それからもう一つ、ザカリヤはキリストを通して希望を見ていました。どのような希望なのかと言いますと、キリストは信じる私たちを全く新しく生まれさせるんだと。キリストは私たちが新しく生まれるための希望なんだと。だれでもキリストを信じるものは絶望の人生に終止符を打つだけではなくて、全く新しいものに生まれ変わるようになります。キリストにはそのような希望があります。

1) 73、74 (75)

73節ではこう言っています。「私たちの父アブラハムに誓われた誓いを」。74-75節「主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてください。私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく」。このような人間に新しく生まれるようになるのです。キリストにあって。キリストにはこのような希望があります。皆さんがいくら勉強に励んでも、このように新しく生まれることはできません。ビル・ゲイツのような財閥になったとしても、新しく生まれることはそこにはありません。AIの研究がいくら進んでも、このように新しく生まれる希望はAIにはありません。宇宙にもありません。キリストだけなのです。だから、その希望を語って賛美を捧げているのです。キリストは私たちが新しく生まれるための希望なのです。

2) ガラテヤ2:20、Iコリント3:16、ローマ8:2、15、IIコリント5:17

だから、そのキリストにあって私は十字架とともに死んで、もはや私が生きるのではなくて、私のうちに私を愛して私のために死んでくださったキリストが生きていることになります。イエス様を信じることは教会に通うことではありません。大人の方々が聖書を読みなさい、嘘をついてはいけないよと言われるから、その通りになることがイエス様を信じることではありません。何がどうであれ、イエス様を信じることはこの唯一の希望である悪魔のしわざを打ち壊されて勝利なさったキリストが自分の内側に生きることになることです。それで新しく生まれることになります。外見はそのまま、神様のさまざまなお計画によって今までのサタンの12の戦略がやぐらとして残っているのでしょうけれども、にもかかわらずキリストを信じるものは新しいものに造り変えられることです。この希望を確認しましょう。だから、だれでもイエス・キリストを受け入れたものは、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっているのかと言われる神の神殿となります。神の住まいとなるということです。当然、ローマ8:2「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです」。滅びるしかない運命、どうにもならなかったそこから永遠に解放されます。なぜなのでしょう。新しく生まれるようになるので。それで私たちはこの。この世の霊を受けたものではなくて、神の子どもにしてください。聖霊を受けることによって神様を「アバ、父」と呼ぶことになります。そのように新しく生まれることになります。このような内容を合わせてこのように宣言するわけです。だれでもキリストのうちにあるものは、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなった。キリストにはこのような希望があります。皆さんが自分自身のことをちゃんと大事にして愛することができないでいる、いつも不平不満、不安、心配の中で生きていることは、キリストにこのような希望があることを知らないからです。認めていないからです。確認してないからなのです。皆さんがどのような過去を歩いてきたのか、今どのような険しい状況なのか、まったく関係ありません。キリストに希望があります。新しく生まれる希望がキリストにのみあります。

3) 礼拝、みことば、黙想、テーマ(神の国とその義)使徒1:7-8、御座の祝福と力の働き-ローマ12:1

このように新しく生まれた結果、私たちはやっとなりの神様に礼拝を捧げるものになります。これが新しく生まれることなのです。礼拝は週一回決まった時間に来て座って一時間過ごす、そういうものではありません。真の神様との交わりが通じ開かれて、御座の祝福が行き来して、私たちの信仰告白と賛美が行き来する、天使が行き来する、そのようなものが礼拝なのです。キリストによって罪人であり、滅びしかなかった悪魔サタンに従っていた者が真の神様に礼拝を捧げることになりました。ザカリヤはそのことをしっかりと見て希望の賛美を歌っているわけです。主の前に清く正しく神様に仕えるもの。まずは礼拝なのです。礼拝を通して新しく生まれたというのは、今まで聞くこともできないし、聞こうともしていなかった、聞いたとしても全部曲がって聞こえていた、神様のいのちのみことばがやっとなり聞こえてくることになるわけです。新しく生まれたのだから。それがすべてなのです。今までは全部人の声や自分の思い、自分の考え、自分の感情に従って、その奴隷だったのではないのでしょうか。神のことばがなかった、光のみことばがなかった、自分の思いのまま暗い世界のままであったわけです。そうならざるを得ません。しかし、やっとなりキリストを通して新しく生まれて、神のみことばが聞ける希望が与えられます。礼拝は神様のみことばを聞ける場所なのです。いのちのみことば、光のみことば、癒しのみことばなので。よく考えてみてください。今までは神のみことばが聞こえてきてなかった、自分の思いですべてを判断して生きてきたのではないのでしょうか。それが暗闇なのです。みことばは神でありみことばは光なのです。光がなかった、いくら皆さんが真剣に悩んで真剣に深く考えたとしても暗闇なのです。そういうものを当てにしないように、頼りにしないように。その戦いなのです。新しく生まれたのだから礼拝が可能になった、神のことばが聞こえるようになったのです。これは幸いです。だから神のことばなので、それを聞いて終わりではなくて、黙想するのです。日曜日の講壇のメッセージをこのような思いで皆さんが聞くとすれば、聞いて「ああ、良かったな」で終わることはないと思います。必ず持ち帰って繰り返し噛みしめて、黙想しながら自分の癒しのポイントはどこにあるのか。考え方の変えるべきところはどこなのか。自分の課題と問題にどのような導きがあるのだろうかということを実際に黙想する時間を持つでしょう。なぜ持たないのでしょうか。礼拝の時に神のことばを聞くつもりでないからです。牧師の説教ではありません。神のことばを聞くつもりで聞きましょう。なぜでしょうか。皆さんはキリストによって新しく生まれた方なので。たましいが生かされていのちを授かったものなのです。だから、博士も聞けないのです。大統領も聞けないです。芸能人も聞けないのです。ただキリストある者は神のことばが聞こえるようになるので、清く正しく神様に仕えることができる存在になります。それで神のみことばを皆さんが黙想すればするほどどうなるのかと言いますと、今まで皆さんがこだわっていたことを「あ、それは違うな。何を食べるか飲むかは違うな。私が求めるべきもの、私が残りの人生やるべきことというのは、神の国と義を求めて福音宣教、たましいを生かす伝道のほかにやることはないな」ということにたどり着くようになります。それが黙想です。正しく黙想できればそうなります。神様は今、それをなさっていらっしゃるから。特に、先に新しく生まれた私たちを通してそれをなさるわけですから。そこにたどり着かない限りは正しい黙想ではありません。必ずなります。だから神に仕えることになるのです。そうすると、イエス様がオリーブ山で弟子たちに最後に残されたことばが、初代教会のことばではなくて、私に対する今神の御声として聞こえます。それらはあなたがたは知らなくてもいいです。聖霊が臨まれると、力を得て、エルサレムからサマリヤ、ユダヤ全土、地の果てまでわたしの証人となる。あなたがたがこだわるべきことは、学生であれ、会社員であれ、主婦であれ、子どもであれ、大人であれ、どの民族のどこの国の人であれ、クリスチャンであれば新しく生まれて神に仕えるものになりますので、その特権、祝福が許されるので、それは知らなくていいよ。条件、環境、状況も言い訳にしないでいい。初代教会は絶対不可能な状況でした。日本の場合は絶好のチャンスです。宣教師の墓と言われる国なのです。0.3%にも満たないクリスチャンの人口です。だから普通では絶対不可能なのです。そして、私たちを見ても何かの保証人になれるような人も一人もいません。それでダメなんではいけません。それでよかったわけです。だから、聖書に書いてある通りの聖書的な伝道でなければ無理なのです、この国は。言葉を変えますと、聖書にある通りにしかないし、聖書にある通りにすれば日本の国において可能になるということを証明できる絶好のチャンスです、私たちは。何一つ悲観的に思うようなことはありません。希望を見ないといけません。だから、それらはあなたがたは知らなくてもいい。0.3%。そこからミッションを使わないといけません。なるほど、私は無能なのです。だから私の力ではできません。しかし、聖書にある通りにすれば可能だし、それ以外には通用しない国が日本なのです。良かったのではないのでしょうか。余計なことしなくてもいいし、余計なことをしてはいけません。ある意味、韓国では余計な方法でも人が集まります。日本はそういう国ではありません。だからよかった。Only 聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまでイエスの証人と

なるよということを証明できる最高の国だと思います。237 国、5000 未伝道種族に宣教する美しいカナンの地に変わらないといけません。私たちの方から始まります。不信仰さえ捨てればいいです。そのためにキリストある私は新しく生まれたんだ。使徒 1 : 7-8 が私の契約なんだ。これを握って祈ると、今まで経験したことのない証人として用いられるために必要な御座の祝福と力が働くことになります。このような内容をローマ 12 ; 1 ではこのように表現しています。「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です」。これが霊的な礼拝です。礼拝を通してみことばを頂いて、それを黙想し、テーマが神の国に変わり、使徒の働き 1 : 7-8 を自分の契約として握って御座の祝福と力が現れるようになります。どこででしょうか。皆さんの生活のすべてにおいて。これが霊的な礼拝です。みことばの黙想、福音宣教、神の力、三位一体の神様の働きなのです。この希望がキリストにあります。キリストにこのように新しく生まれる希望があります。

3. キリストは世を生かせる希望

1) 78、79

最後にザカリヤの預言、78-79 節を見ますとこう語っています。「これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く」。つまり、キリストはこの世を活かせる希望になります。このよう生かす希望はキリストのほかにはありません。ザカリヤはキリストを通してこのような希望を見ていたわけです。

2) イザヤ 60:1-2、ヨハネ 1:4、9、マタイ 9:36

イザヤ 60 : 1-2 にも「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を」。これが世の中の現状、実情なのです。ヨハネ 1 : 4-9 を見ますと、キリストが世に来られて、「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった」。なのに「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」。しかし、人々はその光を受け入れようとしていない。これがこの世の中なのです。そして、マタイ 9 : 36 には、イエス様ご自身がおっしゃいました。多くの人が羊飼いのない羊のようにさ迷って疲れ果てているんだと。そこを生かすことができるのはカウンセリングでもヨガでもありません。瞑想でもありません。何かしらのヒーリングでもありません。必要なことではありますが、生かすことにはなりません。暗闇に覆われているわけですから。そこにキリストが希望になります。

3) I ペテロ 2:9、使徒 4:12、使徒 3:10、創世記 12:3>使徒 1:8

I ペテロ 2 : 9 にこう書いてあります。「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです」。キリストがキリストを持っている私たちを用いて、教会を用いてこの世に光を照らすことにしていらっしゃいます。今もイエス様は休まずにそのことをなさっていらっしゃいます。もしその働きが終わることになればこの世の歴史も終わりなのです。主が再臨なされるのです。すべてはそのことを中心にして動いています。ペテロが裁判の前で「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていない」と言いました。そのキリスト Only を伝えることでこの世を生かすことになります。それでキリストを持っている私たちが、ペテロが神殿の門の前で施しをしていた足のきかない人に向かって、「私にあるものをあなたにあげよう」ということで、その人が癒されて救われることになりました。キリストが信じる私たちの内側に入って一緒に住まわれることで、私たちが私の内側にいらっしゃるいのちであるキリスト・イエスを分け与えることでいのちを伝達することができるようになります。どのようにでしょうか。信仰によって。方法はありません。ただ信仰によって。これから皆さん個人伝道というテーマを頭に入れて祈ってください。受け入れられるか、通用するか、反対されるか、いろんな反応がありますが何も気にしないで、機会が許された時にちゃんと私を通してこのイエス・キリストの福音が、言葉を変えますと、その人がキリストでなければいけない理由を正しくおあかしして説明する練習をしていかないとはいけません。練習という言葉がちょっとおかしいのですが。まずそれがないと、その次には何も進みません。それが正常的な伝道の方法とは言いません。しかし、そこがスタートです。とにかく機会が許された時に、神様が救いに定められた人を用

意してくださったのに、こちらから福音を救いの道をちゃんとお話しできる準備ができていなければ、神様はそういう人を起してくださらないでしょう。その人が信じるか、信じないかはずっと後の話なのです。まずそこがスタートなのでそれを祈りましょう。私たちの内側にキリストが住まわれて、私たちを用いてこの暗黒の世を生かそうとしていらっしゃいます。素晴らしい神様の御業ではないでしょうか。こんなみじめな私を通して。皆さんのどうのこうの、能力があるない一切関係ありません。私にあるものを。お腹空いている者にゆで卵をもっていればあげるのは立派な相撲選手でも子どもでも一緒なのです。持っていればあげられるわけです。そこを頭に入れて祈ってみてください。ある意味、私たちの信仰生活の長い間、いろいろ工夫しているいろいろやっていたのですが、なぜ進まないかという、そこをしていないからです。一人だれかにちゃんと福音を伝えた経験がないのです。その思いで、それは第1の課題にして祈っていきましょう。そうすると、本当に不可能な私たちであり、不可能な日本の地域であります、初代教会に許された聖書的な伝道運動が行われてできるということを証明するモデルになれると思います。それが47都道府県、5000未伝道種族まで時間空間を超越して伝わることになります。無理しなくてもいいですよ。でも、今までの私たちから見ると無理しなきゃいけないのです。不信仰を捨てて。恥をかく場合もあるでしょう。一切気にしないでやってみてください。皆さんが持っているキリストがどれほど威力ある方なのかを体験しないといけません。信者同士ではなくて、暗闇に囚われている未信者の方に光が照らされた時に何が起きるかということを経験しないといけません。

それから創世記12:3「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される」と、アブラハムに神様が与えられた契約が成就するとザカリヤが言っているのです。先ほど申し上げましたように、それがその通りに聖霊が臨まれると、力を得て、エルサレムから地の果てにまで私の証人となると、そのようにキリストによって成就するわけです。キリストによって。神のみことばは一点たりとも無駄になることなどありません。必ずその通りに成就します。だから、ザカリヤはキリストが来られる夢を見て、その確信を持ってアブラムに預言された内容が成就されることを見ていたのです。これからキリストは来られるので、そのキリストによって救われること、教会を通してすべての民族がアブラハムの種によって祝福されると言われていたそのことがその通りに成就され、この世が生かされるようになるという希望を見て預言を語って賛美をしていたわけです。これがザカリヤの預言の内容でした。なので、今現在、私たちが他にこだわっているものがあれば全部下ろして、キリストだけが希望であればキリストに集中しましょう。それでまずは自分自身にある絶望に終止符を打ちましょう。どんなことであれ、過去のことであれ、今現在のことであれ、皆さん自分自身に対して希望あふれる目で見ているのでしょうか。サタンのやぐらがそのまま残って心の傷のままそのメガネで自分のことを見ているのではないのでしょうか。そうすると、自分の人生もそういう目で見えるのです。それが運命なのです。そこを変えないといけません。キリストにのみ希望があるので、ほかのすべてをカットしてキリストに集中して、自分自身の中にある絶望に終止符を打ちましょう。こうなるから希望がある。ああなるから希望があるではありません。キリストで終止符を打ちましょう。

それから、そのキリストを受け入れた自分は、過去がどうであれ、今どんな都合であれ、新しく生まれたということを確認しましょう。感謝しましょう。新しく生まれた。うわべではありません。内側にキリストがいらっしゃることで、それで過去現在未来、全部新しく生まれました。新しく生まれたことを確認して、その上に立って現場を生かす希望の絵を書いて祈りましょう。私を通して現場が生かされる希望を描きましょう。それがあらかじめ見るとかあらかじめ持つという話です。それが祈りです。描くことなのです。それを祈りましょう。そのようになることで、皆さんが礼拝に来たときに礼拝が生かされます。その時まではもちろん礼拝を通して恵みは与えられるでしょうけれども、また礼拝を通して変えられるでしょうけれども、実際には礼拝に来ることは形式的になります。でも、このようにキリストに集中して自分の絶望に終止符を打って、新しく生まれて自分を確認して、現場が自分によって生かされるという絵を描きながら祈り、それで礼拝に行きますと礼拝が生かされて神のみことばが皆さんに答えになります。皆さんに実際、答えになります。やってみてください。

それから、礼拝が生かされて、みなさんの家庭と皆さんが今いる現場から希望のわざを見ることになります。約束します。この主人公になることを主の御名によって祈ります。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリストだけに希望があることを改めて確認して、そのキリストを通して絶望に終止符を打って、新しく生まれたことを確認し、自分を通して現場が活かされる希望の絵を描くことができる信者にしてください。それをもって祈り、礼拝が活かされ、みことば活かされ。家庭と自分の現場が活かされる神の国の御業をひとりひとりが体験できるように、聖霊様が祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。